



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町7-5-2
神戸大学大学院医学系研究科
外科学講座食道胃腸外科学分野
TEL:078-382-5925 FAX:078-382-5939
発行者：掛地吉弘
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
小寺澤康文（神戸大学食道胃腸外科）
印刷：株式会社dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

ISS/SIC 2026 メキシコに 参加して

六本木ヒルズ桜十字クリニック 院長
吉田 昌



私も、63歳となり、思い出の深い学会・研究会に出席して、「縁」を楽しむようになりました。今回の International Surgical Week (ISW) 2026 (MEXICO CITY) 19—23, April は、国際的にはイラン情勢があり、日本の要因として、第126回日本外科学会定期学術集会と会期が重なることから、いつもよりも参加者は少なめになるのではないかと聞いていました。しかしながら、初日の時点で、2210名の登録があり、90か国以上の国からの参加者が集まりました。日本からは38名で参加国の中でトップクラスに位置すると伺いました。恒例の“Japan Night”では、万国外科学会日本支部長の掛地吉弘先生が各テーブルを一つ一つ回って下さり、親しくお話しくださる、貴重な機会をいただきました。

今回、ISDSの“Upper GI Surgery: Tips and Trickies from the experts”というセッションを浜松医科大学の菊池寛利先生とともに司会・発表を行いました。このような国際学会の企画セッションは、実際に開催すると「スカスカ」で低調に終わることも珍しくないもので、心配しておりました。しかしながら、司会席からの写真にありますように、多くの方に参加していただき、充実したセッションになりました。質問が多く、ともに司会をした Sheraz Markar (United Kingdom) 先生が途中で質問を遮ってセッションを切り上げるほどでした。

私は、International Society for Digestive Surgery (ISDS) のメンバーであり、その「縁」は2004年に横浜で開かれた ISDS が最初でした。当時 ISDS は単独で学術集会を行っていたので、ISW の参加は2005年に南アフリカの Durban で開かれたときが最初です。私の学会発表の中では、遅い出会であったと言えます。

この年に、恩師である、故北島政樹先生が ISW の会長になられたので、初回から思い出深い学会になりました。2006年に Rome, Italy で行われた ISDS に参加したときもまだ単独開催でした。2007年に 32th Annual Scientific Meeting of the Royal College of Surgeons of Thailand の中で“ISS Lecture”をさせていただいたことも「縁」を深めた要因です。ISDS が ISW の中で行われるようになったのは、2009年からでした。その後、2011年横浜、2013年 Helsinki, Finland、2017年の Basel, Switzerland、2019年の Krakow, Poland、2022年 Vienna Austria、2024年 Kuala Lumpur, Malaysia に参加しました。意識していたわけではありませんが、次第に縁深く、毎回参加するのが当たり前になってきました。故北島政樹先生の思い出も大きく影響しています。さらに、若林 剛先生が存在があります。若林先生は肝臓が御専門ですが、胃が専門の私の医学博士の論文を指導してくださった先生です。次回、ISW2028 Cape Town, South Africa では、若林先生が ISDS の President で開催されます。私にとって南アフリカから始まった ISW。次回、私にとって最後になるかもしれない南アフリカでの ISW で、皆様との「縁」をさらに深めたいと、楽しみにいたしております。



ISS/SIC 2026 メキシコに 参加して

星薬科大学医療薬学研究室
野村 幸世



2026年4月19日から23日、メキシコシティで開催されました ISS/SIC 2026 に参加して参りました。開催の数ヶ月前、メキシコでは麻薬組織関連の上層部の方が亡くなるという事件があり、危険なのではないかという情報が流れ、出席者は今までの ISS/SIC よりもやや少ない印象でした。そのためか、司会の役割などは直前数ヶ月で徐々に増加し、最終的には司会4つ、発表1つということになりました。小児外科などの専門外の司会もありましたが、楽しませていただきました。

安全性に関しましては、全てが1つのホテル内で行われましたし、宿泊もそのホテルでしたので、学会参加に関しまして危険を感じることはありませんでした。ただ、4月20日にティオテワカンというメキシコシティ郊外の有名な遺跡で発砲事件があり、驚きましたが、テロなどとは無関係な事件のようでした。

日本女性外科医会 (JAWS) はアメリカ女性外科医会 (AWS) との合同朝食会を開催いたしまして、世界中の女性外科医と交流いたしました。写真を添付します。AWS と JAWS は PROFESSIONAL GROWTH, TRANSITION, & RETIREMENT というセッションも開催させていただき、AWS 会長の Nancy Lynn Gantt 先生と共に司会を務めました。日本からは、消化器外科女

性医師の活躍を応援する会会長の河野恵美子先生が GET A GRIP! SURGICAL INSTRUMENTS ARE DESIGNED FOR LAGER, POWERFUL HANDS. DESCRIBING THE ISSUE AND SOLUTIONS という演題名で発表をし、皆に賞賛されました。

ソーシャルイベントも充実しており、ジャパナイト、メキシカンナイト、ISDS ナイトに参加し、メキシコの先生からのお酒の飲み方の解説など、他では聞けない楽しみがありました。

メキシコの街の方々はまだ英語は話せず、片言のスペイン語の方が通じました。こちらが片言のスペイン語を手振りを交えて話すと、それに対して滝のようにスペイン語が返ってくることはなく、お互い、理解し合おうという空気がとても暖かかったです。このような学会の機会がなければ、なかなかメキシコに行く機会もなかったと思いますので、学会に感謝です。



ISW Mexico City 2026 参加報告

名古屋市立大学大学院医学研究科
総合診療医学・総合内科学分野
名古屋市立大学東部医療センター

中山 真美



このたびメキシコシティで開催された International Surgical Week (ISW) 2026 に、IASMEN (International Association for Surgical Metabolism and Nutrition) の Secretary General として参加しました。

私自身、IASMEN の Executive committee の一員となってから早くも 7 年目を迎えます。長く本学会を支えてこられた小谷穰治先生、福島亮治先生にご指導いただきながら、Secretary General として活動できていることを大変ありがたく感じています。IASMEN は決して大きな Integrated Society ではありませんが、結束力の強さと温かな人間関係を大切にしていることが大きな特徴です。各国の外科代謝・栄養領域を牽引するリーダーたちが集い、外科患者における代謝栄養学の重要性を世界に発信し続けています。

ERAS (Enhanced Recovery After Surgery) をはじめとする代謝学を重視した周術期プログラムは、外科患者の早期回復を実現し、予後改善に大きなインパクトを与えてきました。IASMEN は、その学術的発展と国際的普及を縁の下から支える役割を担っており、内科系医師である私自身も深く意義を感じています。

今回、ISW Mexico City において IASMEN は、「ERAS をさらに深化させること」ことをテーマの一つとしていました。プログラムでは、LMICs (Low- and Middle-Income Countries) における課題、先進国との国際協力の実践例など、多面的な視点から議論が展開されました。また ERAS 先進国からは、実践的な運用方法だけでなく、現場で直面する課題、大規模研究から得られた知見、さらにはパーソナライズ化へと進化する ERAS の将来像についても発表が行われ、大変充実した内容となりました。日本からは山田岳史先生にご登壇いただき、腸内細菌に関わる研究成果に会場は大変盛り上がりしました。

IASMEN メンバーにはアジア人が多いこともあり、近年はアジア地域の外科代謝学をさらに盛り上げることに力を入れています。今年も ASSMN との合同セッションを開催し、アジア各国の外科代謝学会からスピーカーを招聘しました。JSSMN からは亀井尚先生が超タイトスケジュールながらご登壇くださり、感謝しかありません。それぞれの国における課題や取り組み、教育活動などについて活発な意見交換が行われ、非常に熱気あるセッションとなりました。

ISW の魅力は学術セッションだけではなく、ソーシャルイベントも大きな魅力の一つで、恒例の ISDS との夕食会は、IASMEN 理事である Jose のオーガナイズのもと、本場のメキシコ料理とともに多彩なメキシコワインを堪能しました。ワインテイastingイベントでは、その歴史や特徴、味わい方について

のレクチャーも行われ、学術交流とはまた異なる豊かな国際交流の時間となりました。

今回の ISW は南アフリカで開催予定です。今回の学会期間中には、ISW2028 の program committee として現地でのプログラム会議にも参加しました。各 Integrated Society の代表者や南アフリカの運営スタッフが参加しており、女性メンバーの多さが印象的でした。会議後には女性メンバー同士でグループチャットを立ち上げ、すでに 2028 年に向けた国際的コラボレーション企画についてディスカッションが始まっています。また、小谷穰治先生がこのたび IASMEN President に就任され、今後 2 年間にわたり IASMEN を牽引される予定です。私自身も Secretary General として微力ながら尽力したいと考えています。

学術、教育、国際協力、そして人と人とのつながり。今後も外科代謝栄養学のさらなる発展と国際的連携の推進に貢献していきたいと思います。



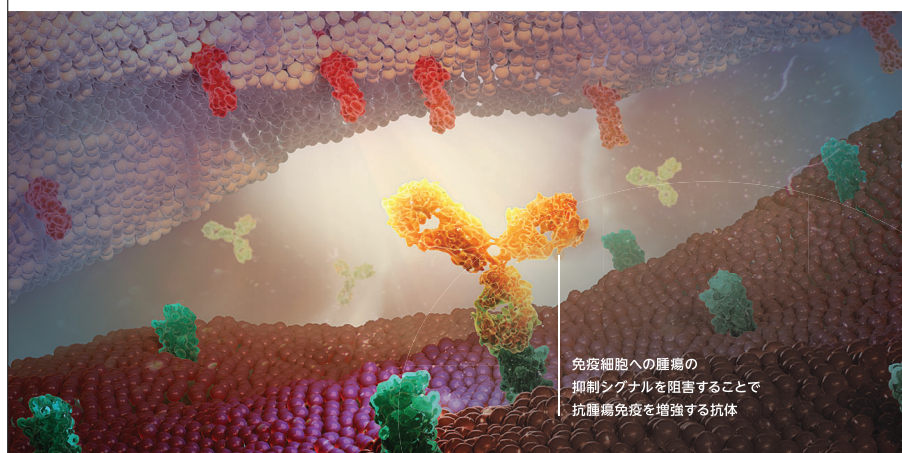
写真 1 : IASMEN Executive Committee



写真 2 : 初日終了後の IASMEN 仲間の集い。本場テキーラを楽しみました（私は一口も飲めませんでした（笑））。

What science can do

AstraZeneca



免疫細胞への腫瘍の
抑制シグナルを阻害することで
抗腫瘍免疫を増強する抗体

アストラゼネカ株式会社

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB
www.astrazeneca.co.jp/

変化する 医療の最先端へ

私たちにとって、患者さんは常にすべての中心です。アンメットメディカルニーズの高い疾患領域において新たなヘルスケアソリューションを開拓する、私たちの取り組みの原動力が患者さんです。

私たちは、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの「価値」に変えるグローバルライフサイエンス企業です。



詳細は astellas.com をご覧ください

astellas

Yokohama Award of International Surgical Week 2026 Mexico City

受賞者紹介

Yokohama Award は ISW2011 Yokohama の余剰金を基金とし、若手外科医の WCS への参加を支援する目的で創設されました。WCS に優れた演題を提出した 40 歳以下の外科医に授与されます（応募には日本支部会員による推薦が必要）。第 7 回である Yokohama Award ISW2026 Mexico City は応募抄録の厳正な審査の結果、次の 6 名の先生が受賞しました。

久留米大学医学部 外科学講座

杉原 利枝 先生

演題名 「RE-SENTINEL NODE BIOPSY IN PATIENTS WITH IPSILATERAL BREAST CANCER RECURRENCE AFTER BREAST CONSERVING SURGERY」



万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度は名誉ある Yokohama Award を受賞させていただき、大変光栄に存じます。

私は、乳房温存術後における同側乳癌への repeat sentinel lymph node biopsy について検討し、発表の機会を頂きました。この受賞を糧に、今後もより一層の研鑽を積んでまいりたいと存じます。

ご指導頂いた先生方、またこのような貴重な機会を与えていただきました万国外科学会日本支部の皆様にご心より感謝申し上げます。

久留米大学医学部 外科学講座 乳腺・内分泌外科

渡邊 秀隆 先生

演題名 「IMPACT OF BREAST RECONSTRUCTION ON QOL IN BREAST CANCER PATIENTS FOLLOWING NIPPLE-SPARING MASTECTOMY」



万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度 2026 年 4 月にメキシコシティで開催されました The 51th World Congress of the International Society of Surgery ISS/ICC におきまして Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter を授与して頂き、大変光栄に存じます。また、Travel Scholar Reception や Japan night で大変お世話になりました日本支部長であられる掛地吉弘先生、ならびに本発表内容を評価し貴重な受賞の機会を与えて頂きました万国外科学会日本支部の皆様、様々な場面でサポートして下さったスタッフの方々に心より感謝申し上げます。本研究は、乳癌の外科手術において、今後ますます増えていく乳房再建を前提とした Nipple-Sparing Mastectomy を受けた症例の臨床成績についての発表です。内容としては、本手術を受けて乳房再建した患者と諸要因により乳房再建を実施していない患者における本術式の臨床成績、特に患者の日常満足度などの QOL に関して、後方視的にアンケート (BreastQ) を用いて、その結果を比較検討したものが中心となります。ISW の会場は様々な国の方が参加し、非常に刺激的や感銘を受けました。日々の臨床や研究へのモチベーションも、改めて強くなりました。本研究・発表を遂行する上で御指導御鞭撻を頂いた方々に改めて深く感謝を申し上げます。（文責：乳腺内分泌外科 渡邊秀隆）

なお、上記 5 名のほか、厚生中央病院 橋本瑤子先生も Yokohama Award を受賞されました。

演題名 「PRIMARY MESENTERIC NEUROENDOCRINE TUMOR CAUSING STRANGULATED BOWEL OBSTRUCTION: A RARE CASE REQUIRING EMERGENCY SURGERY」

ここにご紹介申し上げます。



厚生中央病院
消化器外科センター 外科
橋本 瑤子 先生



神戸大学大学院医学系研究科外科学講座

食道胃腸外科学分野

小寺澤 康文 先生

演題名 「Preoperative Hepatic Fibrosis Predicts Poor Survival in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma Following Minimally Invasive Esophagectomy」



この度は、栄誉ある Yokohama Award を賜り、誠に光栄に存じます。私は、食道癌手術における肝臓線維化と術後成績との関連について発表させていただきました。

ISW には前回のクアラルンプール大会に続いて参加いたしました。今回も非常に国際色豊かで、多様な視点に触れることができ、日本の医療の立ち位置を改めて実感する大変刺激的な機会となりました。今後も一層研鑽を積み、臨床・研究の両面で貢献できるよう努めてまいります。ご指導くださった先生方、そしてこのような貴重な機会をお与えくださった万国外科学会日本支部の皆様、心より深く御礼申し上げます。

神戸大学大学院医学系研究科外科学講座

食道胃腸外科学分野

山根 菜都乃 先生

演題名 「OMISSION OF LYMPH NODE DISSECTION ALONG THE RECURRENT LARYNGEAL NERVE FOR LOWER THORACIC ESOPHAGEAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA WITH SHORT ESOPHAGEAL INVASION」



この度は、栄誉ある Yokohama Award を賜り、大変光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。

私は、「胸部下部食道扁平上皮癌における反回神経周囲リンパ節の転移率の検討」について発表させていただきました。今回が私にとって初めての国際学会での発表であり、世界中の先生方のご発表やディスカッションに触れ、大変刺激的で学びの多い経験となりました。

この貴重な経験と受賞を励みに、今後もより一層、臨床・研究の両面で研鑽を積んでまいります。

このような大変貴重な機会を与えてくださり、ご指導いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

神戸大学大学院医学系研究科外科学講座

食道胃腸外科学分野

スタナット ショーンマイケル 先生

演題名 「THE NUMBER OF RESECTED LYMPH NODES FROM THE UPPER MEDIASTINAL AREA PREDICTS LONG-TERM OUTCOMES OF ESOPHAGEAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA AFTER ESOPHAGECTOMY FOLLOWING NEOADJUVANT CHEMOTHERAPY」



万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、2026 年 4 月にメキシコシティで開催されました the 51th World Congress of Surgery におきまして Yokohama Award を受賞させていただき、大変光栄に存じます。

今回、私は食道扁平上皮癌の上縦隔リンパ節郭清個数が長期予後に与える影響について発表致しました。このような賞を受賞させていただきましたこと、改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

私にとって初めての国際学会参加となりました。様々な先生方の発表を聞く中で、日本と各国の違いを改めて実感しました。

私にとって大変有意義な楽しい学会となりました。このような大変貴重な機会をいただき、深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第 58 回 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会

議事録

2025 年 11 月 22 日（土曜日）午前 7：00 ～ 7：30

Web 開催

出席者： 猪股雅史、菊地勝一、掛地吉弘、菊池寛利、小谷穰治、小林道也、佐藤美信、枝園忠彦、竹政伊知郎、唐宇飛、中山真美、比企直樹、福島亮治、松原久裕、溝端康光、吉田昌、吉田寛、和田則仁
（敬称略、五十音順、計 18 名）
（事務局：小寺澤康文、石井綾香）

1 開会挨拶

小寺澤事務局長より開会挨拶。

2 支部長挨拶

掛地日本支部長よりご挨拶、臨床外科学会最終日の早朝にも関わらずご参集いただいたことへの御礼がなされた。

3 ISS/SIC 理事会報告 掛地日本支部長：

10 月 5 日に実施された ISS/SIC 理事会の報告として、

- ① ISW2026 はメキシコシティで開催予定であり、2028 年は南アフリカのケープタウンでの開催が予定されている。2030 年の開催地は未定であるが、アジア・オセアニアが候補となっており、日本も候補の 1 つとして挙がっている。
- ② ISW2026 について、20 日の Opening Ceremony にはメキシコ大統領、メキシコシティの市長にも出席いただく予定である。21 日の Grey Turner lecture では、ワシントン大学の Carlos A. Pellegrini 教授が講演される予定である。また、翌日（22 日）の Grassi Kitajima Prize では若林剛先生が Moderator を務められる予定である。
- ③ ISW2028（ケープタウン）のロゴについて、ケープタウンの象徴である「テーブルマウンテン」をモチーフにしたロゴを検討中である。

4 International Surgical Week 2026 について 小寺澤事務局長：

2026 年 4 月 19 日から 23 日までメキシコシティにて ISW 2026 が開催される予定である。

例年どおり Japan Night や Opening Ceremony、Mexican Night（全体懇親会）を予定しているが、同時期に日本外科学会定期学術集会も開催されるため、Japan Night は 4 月 19 日に行う予定である。

Japan Night について、学会会場内のレストランでの開催を予定しており、会費はおよそ 100US ドルを見込んでいることを報告した。

5 支部活動報告 小寺澤事務局長：

ニュースレターの発行、支部総会の開催について報告があった。

6 決算・予算案について 小寺澤事務局長：

2024 年度の決算、および 2025 年度の予算案についての報告があった。今後、物価高にともない支出が増加している。本会を Web 開催としたため、およそ 50 万円の支出を削減した。

7 Collective Member Societies より

■ IATSIC 溝端康光先生：

DSTC/DATC を 2025 年 12 月 8 日-10 日の予定で川崎にて開催する予定である。

DSTC は 16 名、DATC は 8 名の受講生をそれぞれ予定している。Course director は、DSTC が溝端先生、DATC は吉村先生が務められている。また、インストラクターとして DSTC は Prof. Ken Boffard、Prof. Elmin Steyn らを、DATC は Prof. JO White、Prof. K Baksaas-Aasen らを招聘する予定である。

■ ISDS 吉田昌先生：

2025 年 11 月 8 日に開催された ISDS のミーティングについて下記の通り報告があった。

ISS Central Office からの Support が足りない（特に Webinar にお金がかかる）ことについて

- ① Webinar のサポートは現時点での ISS と ISDS の契約にないため、今後契約について話し合う



- ② ISDS は毎月または隔月で、Internal Zoom accounts を用いて、コストをかけずに Webinar を開催する。謝礼もなしの方向とする予定である。

- ③ ISDS は、今後 Webinar を増やす、Linkedin などの Social media を活用する、国際会議での活動

を行うなどを行い visibility を向上させる。

■ IASMEN 中山先生：

- 1. IASMEN について、Vice president に神戸大学小谷教授が就任されており、ISW2026 で president を拝命される予定である。引き続き帝京大学の福島教授が councilor を、名古屋市立大学の中山先生が secretary general を務めている。

- 2. ISW2026 について、6 つの IASMEN 単独セッション（STATE OF THE ART LECTURES、JOSÉ F. PATIÑO LECTURE、PRESIDENTIAL ADDRESS、IASMEN MAIN SESSION、PRIZE SESSION、FREE PAPERS）と、7 つの joint session（ISDS、FELAC、IATSIC、ISBI、CMNCTN、ASSMN、ISS）を開催する予定である。STATE OF THE ART LECTURES は神戸大学小谷教授にご登壇いただく予定である。また、ASSMN（アジア外科代謝栄養学会）との合同セッションは、前回初めて開催し好評であったため、2 回目を予定している。アジアの外科代謝栄養学会から登壇者を招聘し、日本外科代謝栄養学会からは東北大の亀井教授にご登壇いただく予定である。なお、22 名の invited speakers のうち、韓国人が 7 名と最も多く、次いで日本人が 6 名と多くなっており、16/22 名がアジア人である。

- 3. IASMEN 全体について、ISW2022 とくらべると、ISW2024 の IASMEN 参加者が 11% 減であった。そのため、ISS からの ISW2026 に際しての配当金が減額となった。ISS からの配当金増額にむけ、MC ではセッションへの積極的な聴講参加を呼び掛けたいと考えている。

■ IASSS 菊池先生：

IASSS との交流については現時点で進展はないが、国内で外科に関心を持つ医学生によるコミュニティ“JASSS”が発足した。現在、組織整備中であり、今後の発展次第では JASSS の学生が IASSS の活動に参加する可能性がある。一方で、JASSS は学生主体の団体であり、IASSS と連携するための日本支部としての事務局機能は想定されていない。また、代表者が毎年交代することから、IASSS 向けの窓口は別途固定しておく方が望ましい。現時点では、IASSS 向けの窓口は引き続き浜松医科大学の菊池先生がご担当される予定である。

8 次回日程について 小寺澤事務局長：

令和 8 年 4 月 25 日（土）京王プラザ札幌近傍にて現地開催を予定している。

9 閉会挨拶

掛地日本支部長の閉会の挨拶で締めくくられた。次回の ISW2026 ならびに日本支部総会への参加の呼びかけがなされた。

以上



良質。均質。ツムラ品質。

生薬には、個性がある。

株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/>
資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。
医療関係者の皆様 tel.0120-329-970
患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930
受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く）

2021年4月制作

2026 年度予算案

（2026 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）

ISS/SIC

日本円の部		単位：円
収入の部	予算額	備考
ドルから預替	642,816	4,147.2 ドル 1 ドル 155 円で計算
広告掲載料	125,000	5 社（1 口あたり 25,000 円）
寄付	0	
雑収入	0	
利 息	0	
当期合計	767,816	
前年度繰越金	3,137,526	
収 入 合 計	3,905,342	
支出の部		
会 議 費	350,000	支部総会 2 回分
通 信 費	50,000	
印 刷 費	82,500	支部ニュース 1 回発行分（PDF 版）
文 具 費	10,000	
交 通 費	350,000	
人 件 費	500,000	
雑 費	20,000	
予 備 費	30,000	
支 出 合 計	1,392,500	
収支残高（次年度繰越金）	2,512,842	

収入の部(Yokohama Award)	予算額	備考
前年度繰越金	4,808,480	
収 入 合 計	4,808,480	
支出の部(Yokohama Award)		
Yokohama Award 賞金	600,000	
雑 費	10,000	
支 出 合 計	0	
収支残高（次年度繰越金）	4,198,480	

ドルの部		単位：ドル
収入の部	予算額	備考
会 費	4,147.20	USD 45×96 名(2026 年会員支払予定人数)・4%チャージ
利 息	0	
繰越金	0	
収 入 合 計	4,147.20	
支出の部		
日本円へ預替	4,147.20	
スイス本部への寄附	0	
支 出 合 計	4,147.20	
次年度繰越金	0	

2025 年度収支決算書

（2025 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）

日本円の部

単位：円

I 収入の部	予 算 額	決 算 額	備 考
会 費	700,500	699,947	4,617.98 ドル 1 ドル 151.57 円で計算
広告掲載料	200,000	150,000	6 社（1 口あたり 25,000 円） 59 号 3 口、60 号 3 口
寄 附	0	0	
雑収入	0	9,565	
当期合計	900,500	859,512	
前年度繰越金	3,260,200	3,260,200	
収 入 合 計	4,160,700	4,119,712	
II 支出の部			
会 議 費	350,000	119,466	支部総会(春：現地、秋：web)
通 信 費	50,000	14,920	HP サーバー代、レターバック代
印 刷 費	165,000	165,000	支部ニュース第 60 号、第 61 号（PDF 版）
文 具 費	10,000	0	
交 通 費	350,000	156,820	
人 件 費	500,000	500,000	
雑 費	20,000	1,210	手数料など
予 備 費	30,000	0	
支 出 合 計	1,475,000	957,416	
収 支 残 高	2,685,700	3,162,296	次年度繰越金

YOKOHAMA AWARD			
I 収入の部	予算額	決算額	備 考
前年度繰越金	4,808,480	4,808,480	
収 入 合 計	4,808,480	4,808,480	
II 支出の部			
Yokohama Award 賞金	0	0	
雑 費	0	0	
支 出 合 計	0	0	
収 支 残 高	4,808,480	4,808,480	次年度繰越金

US ドルの部

単位：ドル

I 収入の部	予 算 額	決 算 額	備 考
会 費	4,752.00	4,276.00	USD45×96名(2025年会員支払い人数)・4% チャージ
利 息	0	0.16	
前年度繰越金	341.82	341.82	
収 入 合 計	5,093.82	4,617.98	
II 支出の部			
日本円へ預替	4,660.00	4,617.98	USD 4,617.98@151.57
スイス本部への寄附	0	0	
支 出 合 計	4,660.00	4,617.98	
次 年 度 繰 越 金	433.82	0.00	

残高 日本円 3,162,296 円（通帳残高 3,137,526 円＋現金 24,770 円）
日本円 4,808,480 円（通帳残高 4,808,480 円）
※2011 年 ISW2011 横浜より YOKOHAMA AWARD 賞金として余剰金（7,812,000 円）を寄贈
US ドル 0.00 ドル（通帳残高 0.00 ドル）

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2026 年 1 月 8 日 監事 馬場 秀夫 印

2026 年 1 月 20 日 監事 海野 倫明 印

52nd World Congress of the International Society of Surgery ISS/SIC

INTERNATIONAL SURGICAL WEEK 2028 Cape town,
South Africa（ISW2028 南アフリカ）

2028 年 3 月 26 日(日)～ 30 日(木)

ご 案 内

2028 年 3 月 26 日（日）～ 30 日（木）の 5 日間、南アフリカのケープタウンにおきまして、International Surgical Week 2028 が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

演題登録の詳細がわかりましたらご案内申し上げます。
※最新情報は HP をご確認ください。

Yokohama Award

5 名程度 Award 一人当たり 10 万円

ISS/SIC 日本支部は、日本からの若手外科医の ISW の参加を支援しています。
応募条件は、応募時点で 40 歳以下の日本人外科医で、
① ISW2028 南アフリカに Oral の演題を提出、かつ
② ISS/SIC の日本支部会員からの推薦があることです。

52nd World Congress of the International Society of Surgery ISS/SIC

INTERNATIONAL SURGICAL WEEK

THE WORLD'S CONGRESS OF SURGERY

26 - 30 MARCH 2028 | CAPE TOWN, SOUTH AFRICA

www.isw2028.com



ISW 2028 南アフリカ・ケープタウン（イメージ）

第 59 回 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会
議事録
2026 年 4 月 25 日（土曜日）午前 7：00 ～ 7：20
京王プラザホテル札幌 2F クローバールーム
現地開催

出席者：井本 滋、掛地吉弘、菊池寛利、小林道也、洲本康史、竹内裕也、
長谷川潔、馬場秀夫、比企直樹、福島亮治、松原久裕、村尾佳則
（敬称略、五十音順、計 12 名）
（事務局：裏川直樹、池田太郎、石井綾香）

1 開会挨拶

池田事務局長代理（神戸大学食道胃腸外科）より開会挨拶。

2 支部長挨拶

掛地日本支部長よりご挨拶、学会最終日の早朝にも関わらずご参集いただいたことへの御礼がされた。

3 ISS/SIC 理事会報告 掛地日本支部長：

2026 年 4 月 19 日に開催された ISS/SIC 理事会について報告があった。理事会は約 6 時間にわたり開催され、主として事務局体制の見直しについて議論がなされた。また、President および Secretary-General の交代が行われた。財政面および運営状況を踏まえ、新たな運営委託先の選定が行われた。3 社よりプレゼンテーションを受けた結果、ACS Global（英国）が新たな委託先として決定した。

ISW2026 には約 2,000 名が参加し、メキシコから 1,500 名で海外から 500 名が参加した。日本からは約 40 名が参加した。前回のマレーシア・クアラルンプール開催と比較すると、日本からの参加者数は減少したものの、海外参加国の中では上位 3 ～ 4 番目であったとの報告があった。

今回の ISW2028 は、2028 年 3 月 26 日から 30 日まで南アフリカ・ケープタウンにて開催予定である。日本からの直行便はなく、宿泊費も 1 泊約 300 米ドルとそれなりの額になる見込みであることが共有された。また、次々回開催地については、ブリスベン、シンガポール、ソウルが候補地として挙がっているとの報告があった。

4 International Surgical Week 2026 について 池田事務局長代理：

ISW2026 は、メキシコシティのポランコ地区に位置するホテル Camino Real Polanco Mexico を会場として 2026 年 4 月 19 日から 23 日まで開催された。会場は比較的整備された環境にあり、良好な運営状況であった。活発な議論がなされ成功裏に終了した。本会には日本から約 40 名が参加しており、前回のクアラルンプール開催と比較するとやや少ない参加者数となった。Japan Night は、4 月 19 日に会場ホテル内のレストランにて開催され、Yokohama Award 受賞者の 6 名の先生の報告がされた。最終的な参加者数は 23 名であり、盛況のうちに終了した。なお、今回の Opening Ceremony では Yokohama Award の表彰が実施され、各国の Travel Scholars との交流の機会が設けられた。

5 支部活動報告 池田事務局長代理：

ニュースレターの発行、支部総会の開催について報告があった。



2026 Japan Night

6 決算・予算案について 池田事務局長代理：

2025 年度の決算、および 2026 年度の予算案についての報告があった。2026 年においては年 2 回のニュースレターの発行を ISW2026 に合わせて発行するため年 1 回へ変更し、夏以降の発行を予定していることが報告された。

7 Collective Member Societies より

■ BSI 枝園忠彦先生（池田事務局長代理代読）：

2026 年 3 月 7 日に、BSI 主催による Virtual Journal Club が開催された。本会では、ドイツ・ロストック大学の Prof. Toralf Reimer 氏を中心に、「Axillary Surgery in Breast Cancer — Primary Results of the INSEMA Trial (NEJM 2024)」をテーマとしたディスカッションが行われた。また、日本、ベルギー、スウェーデン、韓国からのパネリストが参加し、乳癌における腋窩手術に関する最新知見について議論がなされた。

■ IATSIC 溝端康光先生（池田事務局長代理代読）：

2025 年 12 月 8 ～ 10 日にかけて、神奈川県川崎市のジョンソン・エンド・ジョンソン インスティテュート 東京において、第 20 回 DSTC/DATC コースが開催された。本コースは The International Association for Trauma Surgery and Intensive Care (IATSIC) および IATSIC-Japan の主催により実施され、海外から Prof. KD Boffard 氏、Prof. Elmin Steyn 氏らを招聘し、DSTC 17 名、DATC 4 名の計 21 名の受講生が参加した。また、2026 年 3 月 7 日には、本コースに関する Web 会議が開催され、新規スライドの内容およびシミュレーションラボの運営方法等について検討が行われた。

■ ISDS 吉田昌先生（池田事務局長代理代読）：

ISW 2026 に参加された旨の報告があった。本会において、ISDS 関連セッションは計 23 セッション開催され、内訳は、企画セッション 14、ビデオセッション 3、一般口演 4、ポスターセッション 2 であった。若林剛先生、野村幸世先生、菊池寛利先生が複数のセッションで座長を務められ、吉田昌先生ご自身も、Upper GI セッションにおいて菊池寛利先生とともに座長を務められた。予想を上回る聴衆が集まり、活発な質疑応答が行われるなど、非常に充実したセッションであったとの報告があった。

また、本年の Grassi Kitajima Prize セッションでは、若林剛先生が座長を務められた。さらに、ISW 2028 は南アフリカ・ケープタウンにて開催予定であり、若林剛先生が ISDS President として主催される予定であるため、多くの先生方の参加をお願いしたい旨の案内があった。

8 その他 ISW2026 参加報告 福島亮治先生・菊池寛利先生：

福島亮治先生より、IASMEN メンバーとして ISW2026 に参加した旨の報告があった。また、次回 ISW2028 においては、小谷先生が IASMEN の会長を務められる予定であり、若林先生の ISDS President 就任とあわせ、日本人が 2 名会長を務めることになるため、多くの先生方に参加いただきたい旨の発言があった。菊池寛利先生より、今回の ISW2026 では日本人参加者が前回より少なかったことに加え、中東情勢の影響により、例年参加している座長クラスの先生方が参加できなかったこと、また例年行われていた General Surgery や発展途上国に関するセッションも比較的少なかったとの報告があった。一方で、会議運営・マネジメントは非常にしっかりしており、全体として盛況であったとの意見が述べられた。これを受け、掛地吉弘支部長より、インドの先生方からも、渡航困難や航空券の取り直しによる費用増加等を理由にキャンセルが出ていたことが共有された。また、ISS は従来より発展途上国の学生支援等を行ってきた経緯があり、今後もそのような支援活動が継続されることが望まれる旨の補足があった。

9 次回日程について 池田事務局長代理：

令和 8 年 11 月 28 日（土）に開催予定である。開催形式は未定。

10 閉会挨拶

次の日本支部総会への参加の呼びかけがなされ、掛地日本支部長の閉会の挨拶で締めくくられた。

以上

日本支部活動報告

2025.4.1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第 60 号発行
2025.4.12	第 57 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会（現地開催）
2025.11.1	万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第 61 号発行
2025.11.22	第 58 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会（Web 開催）

会員動向

会 員 数	283 名
名 誉 会 員	1 名
シ ニ ア 会 員	18 名
正 規 会 員	264 名

※ 2026 年 8 月 31 日現在